

「東金市第4次総合計画 総論編 基本構想編」（素案）についての意見募集（パブリックコメント）の実施結果

東金市企画政策部企画課

- 1 意見募集期間 令和2年10月14日（水）から令和2年11月13日（金）まで
- 2 意見募集状況 応募者数9人
- 3 意見の概要と市の考え方、修正内容等

No	該当箇所	意見の概要	市の考え方、修正内容
1	P38-39 将来像実現に向けた基本的方向性 P45 計画の実現に向けて	菅内閣発足後、デジタル庁の創設が報道され、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が、国の命運をかけて本格的に始動。 DX化は国際的に競争されており指数関数的に伸張するため、世界的覇権、政治、経済、医療、文化、産業等の分野をリードするようなイノベーションである。東金市は時代の急変に乗り遅れないよう行動したい。 東金市第4次総合計画及び題記テーマはDXという重要なキーワードが見当たらない。東金市はDXプロジェクトチームを立ち上げ、紙文書による情報化を可能な限りデジタルシステム化し、行政間連絡や受付業務の迅速化、効率化、無人化、市民サービスの向上に努める。この思考をベースに戦略を立て、5本の柱を機能させるための行政の取組みに列挙される各施策を計画し実行することが「豊かな自然と伝統を守り未来へ続くMY CITY東金」と考える。	今後のDX化については重要なキーワードと認識しております。よって、第3章まちづくりの基本理念において、基本理念を補完する共通視点として、次代の技術革新に対応していく視点を挙げ、デジタル化へ柔軟に対応していく旨記載しております。 今後、基本構想を具体化する前期基本計画の基本方針においても、DX化については明記しております。
2	P1 計画策定の趣旨について	わが国には地球温暖化対策推進法があり、2030年までの中期目標が定められている。また、菅総理は所信表明で2050年までに二酸化炭素排出を実質0とする新たな取組みを決意表明した。また、山武市など近隣の自治体においても、同様の意思決定がされている。この10年で気候変動への取組みの評価は大きく変わっている。 しかしながら、今回意見募集している2030年度目標の素案には気候変動に関する記述が全くない。これでは、第3次計画の焼き直しといわれても反論できない。 現時点で二酸化炭素排出実質0への道筋を示すことは困難であり、基本計画に記述すべきものではないが、新市長のもとで、国の動向、化学技術の進展などを踏まえて的確に施策に反映させていく方向性は記述すべき。	基本構想におけるまちづくりの柱3「街・道・自然が織り成す市域を創る」の中で、住環境整備と生活環境への配慮を推進していくこととしており、地球温暖化対策の推進及び循環型社会の構築を目指すことを明記しております。 具体の施策については、いただいたご意見を参考に、国の動向等を注視しながら、前期基本計画期間内において検討していきます。

3	P36-37 土地利用の方向性 その他計画全般に対するご意見	・基本構想の段階なので仕方ないかもしれないが、内容が概略的すぎるので、どのような市政運営にも適用されてしまい、市民の声がどこまで届くかわからないというのが感想。「子育てするなら東金市」「高齢者でも安心して暮らせる東金市」「学ぶなら東金市で」「創業者の街 東金市」「近未来実験都市東金」こんなスローガンを使えるような具体性のある施策運用等を望む。 ・現在、新型コロナの影響で地元経済も停滞・落ち込んでいる状況。他の自治体では、市の職員が企業を巡回して補助施策の紹介や申請の補助をしている。市の規模から職員数が不足するのは分かるが、もっと市民生活に寄り添う方向性の施策があってもいいと考える。 ・土地利用の方向性に関する記述について、30数年前に市から駅前再開発の話があったが結局何も変わらなかった。	具体の施策については、前期基本計画期間内において、検討していきます。基本計画では、とうがね10年の経営重点戦略において、重点的に実施していく施策を明記しております。
4	P10 第3次総合計画の総括 P40-42 【まちづくりの柱1～3】	第4期基本計画の総括として、指標に照らし一定の成果が出ているとあるが、一市民として何が成果として出たのか疑問。第4期基本計画で残された65.8%の項目を見直し再計画として達成させるよう努力する必要あり。急務な課題として①財政を回復する。手段として、交通網の整った環境を利用し、雇用に繋がる生産性の高い企業を誘致すべく工業団地計画を急ぐこと。②人口減少を抑えるためには、若者が当地に安心して住み続けられるように若者の職場が確保されるような情報の窓口が必要。また、それに伴う地方移住者を促進する市としてのキーワードがほしい。③東金市は文教都市としては、他市に比べて非常にレベルが高いと思う。これを活かしてさらに小中高の一貫した進学校の誘致を計画されたらと思う。	課題として挙げていただいたものについては、いずれも市の施策として重要であると認識しております。企業誘致や働く場の創出による若者定住については、まちづくりの柱2「稼ぎ・賑わうまちを創る」に、学校教育については、まちづくりの柱1「子どもたちの今と未来を創る」において推進の方向性を記載しております。 具体の施策については、いただいたご意見を参考に、前期基本計画期間内において検討していきます。

5	P42 【まちづくりの柱 3】	①西福俵地区で発生する洪水を無くし、安心安全な暮らしを確保 ・農業用排水路の流れが悪く、東金線線路が堤防となり流れをせきとめ、西福俵区内に洪水が発生している。 ・東金市都市計画課が指導して造成した住宅地であり、また千葉県が「租税法上の優良宅地」として認定しているのに、なぜ洪水が発生するのか。 ・西福俵地区は、東金市発行のハザードマップの表示が現状とあっていない。 ・一連の洪水の解決策として、路線下の境川の拡幅が必須である。 ②福俵駅のホームの移転 ・朝夕通勤通学者が多く、福俵駅ホームを交通広場ロータリーに移転を望む。	今回策定しております第4次総合計画基本構想編は、市の目指すべき将来像や事業の方向性について定めるものです。そのため、ご指摘いただきました具体的事例の明示は行いませんが、今後、具体的に計画を進める中で、対応を検討して参ります。
6	P43 【まちづくりの柱 4】 P45 計画の実現に向けて	・機構改革について市民福祉部より市民課と国保年金課を独立させて、社会福祉課、高齢者支援課、こども課、健康増進課を「福祉部」として再編させる。加えて縦割り行政の弊害はないか等、少子高齢化が進む中、市民サービス向上のため望ましい「しくみ」を検討し、福祉の街、教育の街として活性化を計ってほしい。 ・東千葉メディカルセンターは、三次医療に重点があるとの目標だが、対象を二次まで拡大し、患者を集める抜本的な方策を検討すべき。 ・地域包括支援、子育て支援、貧困対策、在宅医療の充実、24時間訪問看護サービスなど、各所連携を計り、10年20年先を見て、いい方向を模索すべき。	今後計画を進めるにあたり、参考とさせていただきます。

7	P33 目指すべき将来像 P34 まちづくりの理念 P37 土地利用構想図 P41-44 【まちづくりの柱 2～5】 P45 計画の実現に向けて	・これからの東金市は可能な限り多くの分野で周辺地域と連携して諸施策を進めるべき。 ・曖昧な表現が多いが、可能な限り必ずやるべき具体例を挿入した方がいい。 ↓ ①P33 目指すべき将来像 広域連携の観点から「ともに豊かな自然と伝統を生かし、地域の中核のまち東金へ」に原案を変更。 ②P34 まちづくりの理念 近隣市町と可能な限り協力し合い…という文言の追加。 ③P37 土地利用構想図 里山ゾーンに存在する源地区について、近隣の八街市との間で区画整理してはどうか。 ④P41 魅力的な観光コンテンツの創出 近隣市町と連携した広域的観光戦略により、「季節ごろの日帰りバスツアー」などをツアー会社に提案…挿入追加。 ⑤P42 東金駅の建て替え：その際乗換ホーム及び歩道橋にエスカレーター設置 JRと東金市が双方で費用分担。 ⑥P43 (1) 健康寿命の延伸のため、ふれあいセンター及びアリーナを活用し…という文言の追加。 (2) 医療体制：経営安定化のため出資を含めた広域的連携 (3～5) 新たに立法予定の「労働者協同組合法」を活用した取組みを検討 ⑦P44 (2) 東金文化会館での大型イベント（オーケストラ、オペラ）を年に1回は開くなど有効活用を図り… (3) 大きなイベントを開催できるよう東金アリーナの活用 (4) 城西国際大学にも協力を求め、一体となり国際交流活動 ⑧P45 広域的な連携によるまちづくり：既に行われている東金市外3市町清掃組合、消防、水道、斎場などに加えて、たとえば、山武地区IT化連合、山武地区農林事業連合、山武地区商工観光連合	これからの市政運営においては、様々な分野での広域連携の検討は必要であると考えており、「基本構想 3 計画の実現に向けて」においても、広域的な連携によるまちづくりを進めることについて記載しています。 具体の施策については、いただいたご意見を参考に、前期基本計画期間内において検討していきます。
---	---	---	---

8	P41. 42. 44 【まちづくりの柱 2・3・5】	・P41（4）「魅力的な観光コンテンツの創出」について 市内に存在する観光資源、特に古い建物の利活用などを観光コンテンツとして利用できると考える。魅力的な観光コンテンツとなるには、建物の保全や事業化にかかる費用などが必要になるが、国からの補助を受けることができる（数百万から数千万規模、県内自治体で実績あり）。たとえば、駅西口商店街の古い建物群は指定を受けられる可能性あり。 ・P44（2）「歴史・文化の継承」について 文化財継承の方法については、平成２８年にまとめた「東金駅西口にぎわい創出事業」の中で具体的な事業計画が提示されている。観光振興事業で国からの補助金を受けて、事業資金を確保することができれば、もう少し活気のある魅力的な街並みに変えることができるのではないかと。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため観光産業は厳しい状況ではあるが、来年２０２１年は東京オリンピックの開催も計画され、感染拡大の収束後には必ず成長産業として活況が戻ってくるはず。今のうちから、建物保存など環境インフラの整備への投資を検討すべき。 ・P42（3）生活に適応した公共交通網の再編 デマンドタクシー利用者の声として、取組みについては評価している方が多い一方、予約の取りにくさ等、利便性に対しては厳しい意見が多い。	具体の施策については、いただいたご意見を参考に、国の動向や市民意見等を注視しながら、前期基本計画期間内において検討していきます。
---	-----------------------------------	--	---

9	P4 東金市総合計画の構造 P10 第3次総合計画の総括 P33 目標年度 その他計画全般に対するご意見	・P10 第3次総合計画期間の主要な取組 第2期部分 財調については、第2期基本計画初年度（H18）の27億円から、H21年度は13億円にまで落ち込み、H22年度に22億円まで回復したものの、計画以前のH17年度25億円まで届いていない。ついては、「財政破綻を回避し、将来に向けての財源を確保しました。」とは言えないと考える。 ・P10 第3次総合計画期間の主要な取組 第3期部分 東千葉メディカルセンター建設が将来へ向けての種まきとしているが、赤字続きであり、いまだに心配の種である。 ・年号標記について 元号を跨いでの表記だと、それが現在から何年前のことかわかりにくい。年号は西暦表記、または西暦と和暦とを併記する形はいかがか。 ・P4 東金市総合計画の構造（3層構造） 実施計画が重なる年がある。このような計画が他自治体・国等にあるのか。あれば、実例が知りたい。 ・東金市第2次都市計画マスタープランとの関連 上位計画の総合計画の計画期間が10年。下位の都市計画マスタープランの計画期間が20年。上位計画の方が下位より長い方が一般的と考えるが、上位の方が短い理由は何か。	・第2期基本計画期間は、第2次東金市行財政リフレッシュ・プランによる行財政改革を進め、財調でみても、一定水準まで回復していることから、一定の効果があったものと考えます。 ・総論編においては基本的に和暦を使用しておりますが、計画の目標年度の表記など、とりわけ重要なものについては、西暦と和暦を併記しております。 ・東金市以外にも複数年度で実施計画を策定する自治体は、船橋市等、千葉県内にも複数ございます。 ・都市計画は、その目的の実現には時間を要するため、中長期的な視点から定める必要があり、20年の計画期間としております。 一方で総合計画は、都市計画で示す土地利用の方向性以外にも、市の業務全般の方向性を示すものであるため、時代の移り変わりや急激な社会情勢の変化を踏まえ、機動的に対応できるよう10年の計画期間としております。
---	--	--	--